

Genome Damage Network Workshop 2021 ~Online Retreat~

フルトークは発表30分、質疑応答30分で、計60分の発表になります。

ショートトークは発表20分、質疑応答10分で、計30分の発表になります。

*注:発表の途中でも質疑応答が行われますので、発表時間はスライド作成時の目安ということでご理解ください。

11月18日(木)

12:30-12:50 受付 (zoom を開場します)

12:50-13:00 Opening remarks by 柴田淳史 (群馬大学)

セッション1

13:00-14:00 安原崇哲 (東京大学)

「核内凝集体が誘導するゲノム不安定性機構」

14:00-15:00 香崎正宙 (産業医大)

「ゲノム不安定性が増大する遺伝的背景で、われわれ哺乳類はどうやって長生きできるのか？」

休憩 30分

セッション2

15:30-16:00 勝木陽子 (京都大学)

「E3 ユビキチンリガーゼ RNF168 はユビキチンシグナルを介してクロスリンク修復因子 SLX4 をリクルートする」

16:00-16:30 松寄健一郎 (近畿大学)

「アセトアルデヒド誘導 DNA 損傷と修復メカニズムの解析」

休憩 15分

16:45-17:15 加藤玲於奈 (東大)

「E3 リガーゼ SMURF1 による転写共役型 DNA 二重鎖切断修復制御機構」

17:15-17:45 関本隆志 (群馬大)

「がん遺伝子 Myc が誘導する複製ストレスにおけるグアニン四重鎖の役割」

17:45-18:15 西良太郎 (東京工科大)

「DHX9 の多様な制御からみる DSB 修復」

18:15-18:30 オープンディスカッション

(演者の方々、参加者とフリーディスカッション)

19:00- オンライン勉強会 @oVice

テーブルを2-3つに分けようかと思えます。

その場合は、当日に席替えメーカー (<https://sekigae.jp/>) で決めます。

11月19日（金）

セッション3

9：30－10：00 内原脩貴（群馬大学）

「DNA 損傷応答を介して惹起される HLA Class I 細胞膜提示の分子機構」

10：00－10：30 大塚健介（電中研）

「細胞から組織のゲノムストレス動態の理解」

10：30－11：00 佐藤浩央（Weill Cornell Medicine）

「新規がん治療法のための放射線治療誘導性免疫反応の解明」

休憩 15分

11：15－12：15 山内基弘（九州大学）

「DNA 二本鎖切断の相同組換え修復におけるスプライシング因子の役割」

12：15－12：30 オープンディスカッション&Closing remarks by 柴田

（演者の方々、参加者とフリーディスカッション）

12：40－13：30 オンライン勉強会@oVice

*もしお時間に余裕があればご参加ください。